

（一社）世界文化遺産地域連携会議 2023 総会議事録

2023年6月20日 16:00-17:30

於・TKP 赤坂 8A ホール

お世話役・島川（開会）

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、お集まり下さいまして有難うございます。

一般社団法人、世界文化遺産地域連携会議、お世話役の一人、神奈川大学の島川です。

それではこれから、会の2023年度 総会を開催させていただきたいと存じます。

まず、本日ご参加者いただいている社員数は31、事前に委任状を超際しているのが72の合計103でございます。社員総数140（官65・民75）に対しまして、定款11条の「過半数」と言う基準を満たしておりますので、本日の総会が有効に成立することをご報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして、門川代表理事より一言ご挨拶いただきたいと思います。

門川代表理事（開会あいさつ）

皆さんこんにちは。やっと、3年ぶりにお会いできました。

本日はお集まりいただき、誠にありがとうございます。これから世界文化遺産地域連携会議の、2023年度総会を開催させていただきたいと存じます。

まず、この間、世界遺産登録を果たされた「北海道・北東北の縄文遺跡群」の皆様、おめでとうございます。また、会への参加を心より歓迎いたします。縄文遺跡群の登録は誠に意義深いものがあります。ご関係者の努力が実ったというのはもちろんですが、日本の世界遺産全体でみた場合、それにより地理的には世界文化遺産を通して、北海道から沖縄までの全土、また歴史的には、縄文時代から戦後までの日本の歴史が世界遺産でカバーできるようになったからです。

さて、この会の活動の3本柱は第1に「国への要望提案」、第2に「世界遺産地域間の交流促進」、第3に「さまざまな共同事業の実現」です。

要望活動につきましては、ついさきほどまで国会議員や官公庁、文化庁等々を一戸町長さん、つがる市の副市長さん、平泉町長さん、富士河口湖町の副町長さん、そして何よりも事務局を担っていただいている井戸さんに大変お世話になりながら回ってきました。京都市の観光と文化の担当者も一緒に行ってきましたけど、国会の会期終了間際ですのでご多忙な中では

れどもきちんと対話して頂いた議員の先生方、官庁の皆さんに敬意を表したいと思っています。

世界遺産は一般的には有名でも、それぞれが抱える厳しい現状について、国の理解がまだまだ得られていませんので、今後も諦めることなく、粘り強い活動を行く必要があると思っています。

次に、活動の2番目は「世界遺産地域間の交流促進」です。各地の進んだ取組や考え方を共有しあう「世界遺産サミット」が、昨年度は富岡市で開催されました。そしてこの秋は斑鳩町で10回目の開催となります。まさに継続は力ですね。我々は身を引き締めて、世界遺産を百年・千年先の未来に伝えていかなければならない、という共通の責任があります。後ほど富岡市長さんから9回目のご報告やご感想なども頂きたいと考えています。

3番目の世界遺産での「共同事業の実現」の分野では、4年間にわたり「日本博」の予算などを獲得し活動して来ました。そうした活動を通し、色々なことができるようになってきました。一方では、イベントや情報発信といったことだけではなく、観光地としての持続可能性や世界遺産内での観光客の周遊促進など、心して取り組んで行かなければいけないテーマも増えて来ています。事業のための予算の確保も大きな課題であり、今後どうして行くのかについて、今日はぜひ皆様のご意見を伺いたいと思います。

さて、本日は決算報告や予算審議をおこないますが、これらはできるだけ手短かに済ませ、できるだけ多くの皆様からご意見や今後の活動に対する、自由なアイデアを出していただきたいと思います。よろしくご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

それでは議事を進めたいと思います。

まず事務局より、資料の説明をお願いします。

お世話役・井戸（新メンバーの紹介）

お世話役の一人をさせていただいております、井戸でございます。

PP1 まず、お手元資料では1P。2023年度から新しく会のメンバーになられた方々です。北海道・北東北の縄文遺跡群より、青森市・つがる市・外ヶ浜町。いずれも青森県です。それと資料の印刷には間に合いませんでしたが、秋田県の鹿角（かづの）市。「鹿の角」と書きますが、以上、4市町が入会されています。

縄文遺跡群の関係では、昨年までに入会されている岩手県の一戸町さん、青森からは弘前市さんと七戸町さん、そして北秋田市さんと、本州側についてはだいたい固まって来たかなという感じになって来ております。

定款により鹿角市長さんを加えた4市町村長さんには、理事にご就任いただくことになりま

すので、宜しく願い申し上げます

また、民間メンバーとしては平泉文化センター客員教授の八重樫さんが新しく会のメンバーに加われました。新しいメンバーのご紹介は以上です。

門川代表理事

今日は新メンバーとして、つがる市から、今（こん）副市長さんが見えます。
お一言、市のご紹介などお願いします。

今 つがる市副市長

皆さんこんにちは。青森県つがる市から参りました。副市長の今と申します。ただいま紹介にありました通り、北海道北東北の縄文遺跡群の中でつがる市は田小屋野貝塚、それから遮光器土偶の故郷であります亀ヶ岡石器時代遺跡を有しております。今回こうして新しくメンバーになることができました大変嬉しく思っております。門川代表理事はじめ、皆様のご指導を頂きながら皆様と連携をとって本会議を盛り上げていければと思っております。今日はよろしくお願い致します。

門川代表理事

続いて、昨年 ZOOM でお目にかかりましたので、新メンバーではありませんが、岩手県一戸町（いちのへまち）の小野寺町長さんもお越しです。あらためて町のご紹介をお願いします。

小野寺・一戸町長

岩手県の県北に位置します御所野遺跡が世界遺産登録させて頂きました。本当に皆さんのお力だと思い、ありがたく思っております。コロナ禍でございましたので中々観光客の方は増えておりませんが、20年かけて60万人、去年の7月に達成させていただきました。今後はいづれ皆さんと協力し連携しながら、多くの皆さんに縄文遺跡を知っていただきたいという、そういう活動をしていきたいと思っております。隣におられます平泉町長さん、青木さんは私たちの先輩でございますので、色々ご指導を受けながらやって行きたいし、この間の経験を皆様からも色々ご指導頂きたいと思っております。御所野遺跡の縄文人の方々は4500年前、5000年前から一戸に住んで、争いのない社会を自分たちで作り、生活をしていたということを知っております。新幹線で東京から3時間ほどで二戸駅に着きますが、その隣町でござい

ます。是非一回来てみていただきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。有難うございました。

門川代表理事

有難うございました。

では、ここからは議事に入ります。事務局より議案１及び２について説明して下さい。

お世話役・井戸（議案１・２説明）

お手元資料の２Ｐから９Ｐまでが、昨年度の会の事業報告です。

パワーポイントでもご報告させていただきます。

PP2 まずお手元資料では２Ｐ、会の活動の第１として、メンバーや地域間の意見・情報・ノウハウ交流を活性化させて行く、ということがございます。しかし残念ながらコロナの影響によりまして、昨年度の総会は２年連続のリモートで交流会等も開催できませんでした。一方ではメーリングリストやＺＯＯＭなども活用し、メンバー間で活発かつ日常的に意見・情報交換をおこなって来ております。

（４）の世界遺産サミットは富岡製糸場で開催されました。世界遺産そのものを主会場にした開催は恐らく初めてではないかと思えます。概要は資料記載の通りですが、詳しくは後ほど、富岡市の榎本市長さんから当日のお話等いただければと思っております。また議論の内容につきＹＯＵＴＵＢＥでも公開されておりますので、是非ご覧いただければと思っております。

PP3 活動の２、だじな活動の２つめ、国への要望活動についても、残念ながらコロナのため、昨年度、リアルなものはできませんでした。

続いて活動の３、遺産別プロジェクトチームや地域課題などに関する情報収集・意見交換ですが・・・昨年度は斑鳩と西日本の世界遺産連携という２つのプロジェクトチームがそれぞれ５年目の最終年度となりました。西日本連携では石見銀山の大田市さんに幹事になっていただき、仙台から鹿児島中央まで全国１５の主要駅で、原爆ドーム・厳島神社・萩・姫路城をあわせた共同ＰＲを実施しています。写真はいずれも品川駅の中央通路です。

また、資料４Ｐにありますように、各遺産を最低年間１回は訪問させていただき、勉強させていただいたり、提案させていただいたりということをやってきました。夏には北海道での視察を兼ね、事務局に近い若手メンバー中心に、言うても４０歳くらいですが（笑）・・・ブレスト合宿も開催しております。

PP4 活動の４は各種 共同事業の推進です。（１）お手元資料では５Ｐ・６Ｐが、姫路市さんからの提案でオリンピックイヤーをきっかけに始めることになった「世界遺産リレー催

事」です。昨年度は4年連続で「日本博」の資金を得ることができ、コロナで縮小を余儀なくされたものなどもありましたが、四季を通し、合計18の催事が実施されました。

主なものをご紹介します。春の世界遺産桜リレー。吉野と富士宮です。夏には大阪での世界遺産写真展、秋には京都の「ネイキッドガーデン・ワン・キョウト」京都・大津・宇治を1つの庭に見立て各社寺などでイルミネーション・イベントなど繰り広げられました、そして姫路城の「シロノヒカリ」、白川郷・五箇山の一斉放水、冬が潜伏キリシタンのサイレント・クリスマス、百舌鳥古墳群での世界遺産劇場。こうした18の地域・事業に参加ご協力をいただきました。

PP5 続いて7Pが共同事業(2)の情報発信です。まず①「世界遺産リレー催事」を中心としたHPを、引き続き11言語で充実させて行きました。②の映像につきましてはこの会の開会前に流しておりました4本、平泉・藤原まつり、奈良の夏の夜、縄文まつり、首里城復興祭 が昨年度の制作となっております。

③のYOUTUBE 広告ですが、2019年にロンドン・パリ・マドリッド、20年のNY・ロサンゼルス・東京、21年のドイツ、イタリア、ブラジル、ロシアに引き続き、昨年度は平泉と縄文を台湾、奈良を中国、琉球王国を豪州、2021年末に撮影した潜伏キリシタンのサイレントクリスマス在韩国でそれぞれ発信しました。

ここまで撮影済の映像はそれぞれ10種類となり、掛ける11言語の110映像で、日本の四季を概ね表現できる格好になってきてはおります。また、通算での主に海外からの30秒以上視聴者数が100万人を突破しまして、年度末時点で115万人となっております。

なお、お手元資料の7P下側に、ご参考までにそれぞれの映像に関する時点での最多視聴国と視聴数をお示ししております。

PP6 8Pの(3)。各地のご参加ご協力を得て、昨年3月にスタートさせることができた「世界文化遺産スタンプラリー」ですが、スタンプならびにパンフレットを遺産毎に20種類、スタンプ設置箇所は縄文遺跡の登録に伴い、58に増やし継続いたしました。

島川さん、そこにある20種類のスタンプシート回覧して下さいますか？・・・パンフレットはそれぞれの訪問記念にさせていただくとともに、以外の世界遺産にも興味を持って下さったらいなという方法をとっているということでございますが、世界遺産にまつわる、誰もが分かる場所のネットワーク形成ができたというのも1つの成果だと思っております。設置箇所の一例、宗像の筑前大島、広島の大原爆ドーム横、長崎のグラバー邸です。

なお、ご参考までに初年度、押印者が多かった場所のベスト10をお手元資料9P上にお示しさせていただきます。富岡製糸場・姫路城・葦山反射炉・百舌鳥古墳群のビクターセンター・そして首里城というのがベスト5となっております。

パンフレットは四半期に一度、それぞれの設置箇所の掃け具合により補填作業をしております。累計設置総数は31万部ほどですから、今あるものが全て掃けたら、まあそれに近い数の方々にご利用いただいていることが証明できるのだと思っています。

PP7 事業報告の最後は、昨年度から始まった11月13日「いい遺産の日」周辺日での世界遺産一斉清掃です。お手元資料では9P。

宗像市の呼びかけにより初年度は御所野遺跡、日光門前町、荒船風穴、三保松原、熊野古道伊勢路、京都、奈良、宗像、遠賀川水源地ポンプ室・明治日本の産業革命遺産の福岡県・中間市です。そして南島原の原城跡、首里城という11の世界遺産関係地が参加されました。

三保松原での様子がニュースに取り上げられておりますので、1分少々ご覧いただければどんな感じが分かるいただけるのではと思います。

テレビ画像

今日11月13日は語呂合わせでいい遺産の日です。世界文化遺産の一つ静岡市の三保松原ではボランティアによる清掃活動が行われました。全国11カ所の世界遺産で一斉に行われた今日の活動。三保松原ではおよそ1,000人が参加し、草刈りや落ちた松葉を箒で丁寧に集めていきました（・・・以下の参加者インタビュー等は省略）。

お世話役・井戸

これはひとえに宗像市さんがリーダーシップを取って下さったからなのですが、私自身たいへん勉強になったのは、第一に市民や旅行者の方々に「世界遺産に貢献したい」という方がやはりたくさんいらっしゃるという点、そして同時にそういった方々への受け皿があまりにもなかったよね、ということを再認識した次第です。昨年度の事業報告は以上です。

続きましてここからはお手元資料で（議案2）2022年度の決算報告につきご説明させていただきます。

10Pの表の左から2つ目の欄が2022年度決算の収入の部でございます、①の市町村会費収入は144万円。一昨年忘れてらっしゃった分を振り込まれた所の分を合わせた数字です。

②の事業収入は括弧の1番上、「日本博」関係のものが合計で4415万699円、ただし右側に書いておりますように、国からの支援は2766万2千円、3分の1の裏打ち分に地元事業実施費相当として、発案者の姫路市さんにご協力いただき、1648万8699円をかたち上ここに含ませていただいた数字となっています。従いまして会の実力はこの決算額から姫路市分の1650万円を差し引いた額ということになります。

②の続く3項目は文化庁からの「文化財総合活用予算」です。括弧一番上、紀伊山地PTは2021年度で5年目を迎え終了しましたのでゼロ。続いて斑鳩PTに345万円、そして石見銀山PT、主には西日本世界遺産の共同PRですが、これに396万円がついております。

このPT予算は11Pの支出の部では差し引きゼロでそのまま同額が事業支出となります。

以上4事業の合計が②事業収入5156万699円です。2021年度からの減少は、主には紀伊山地PTの終了によるものです。

③の交流会費ですが、これは従来、総会・交流会をやっていた霞山会館で「パーティセット」という形で会場を借りておりました関係で、交流会参加費を計上し、支出はそれを含めた「総会費」として処理をしてきた経過があります。しかしながら、昨年度は交流会を実施してませんので、ここはゼロ。

④の寄付金ですが、2020年の二条城「アートアクアリウム」で、入場料収入から特定%を会にご寄付いただいたため項目が残っておりますが、昨年度はここもゼロとなっております。

ということで、以上に、利息と前年度繰越金を合わせまして5660万5653円というのが昨年度の収入合計です。

続いて資料11P、支出の部です。

右側の備考欄に①②とかと書いてありますが、これは収入の部の収入項目に対応しております。基本的な考え方としては、会にとって最も基礎的な部分は収入の部①の会費、あと足りない分は⑥の繰越金から拠出させていただく形になっております。

支出の部1の要望活動費は昨年度やれなかったということでゼロ。2の会議費34万8560円はリモート総会の開催費、また資料の印刷費と郵送料です。加えて、事務局関係者によるブレスト合宿を兼ねた、北海道の縄文遺跡群視察をおこなった分が主にはここに入っております。

3のイベント費用はサミット関係です。2万9500円。具体的には世界遺産リレー催事関係に該当しなかった交通費や出演者謝礼の補填分です。2021年決算額との差額は、前々回の会主催で実施したものに、日本観光振興協会からの協力金30万円が入ってくることになり、21年にはそれを活用してZOOM分科会への一般向け参加を募集したという理由です。

4の広報費、括弧1番上の4442万9177円は「世界遺産リレー催事」関係で、収入の部で言うと②の第1項目4415万699円 見合いです。いわゆる情報発信系、地域事業の実施費以外に、実行委員会関係4名の人件費、交通費がここに含まれています。あとは収入の部との差額25万1800円が「世界遺産リレー催事」実施にあたっての会の自己負担分という形になります。

括弧2つめの2万6678円はインターネットのプロバイダ料で、収入の部①からです。3つめのその他広報は2021年には十周年ということで多少のことをおこないましたが、昨年度は特におこなわず、以上の合計が4442万9177円となっております。

5の事業推進費742万8920円のうちカッコの上3つは各プロジェクトチームに関するもので、収入の部②の「文化財総合活用事業」関係の収入との見合いです。その他で1万8920円とあるのは、広報やプロジェクトチーム運営にあたって国からの費用で賄えなかったもの、主には振込手数料です。

保守的経費としては6の調査研究費4万74円、入場料・書籍購入・会合参加などの費用です。7の旅費交通費34万3508円は「世界遺産リレー催事」に関係しないもの、加えてレンタカー・タクシー・高速代・ガソリン代等、国費用に計上できなかったものの合計額です。

以下、８通信費５万３６４４円は郵送や宅急便の費用、９消耗品費５万３３３７円は主には文具とコピー代です。１０の地代家賃は貸金庫とスタンプラリーパンフ等の保管に要した貸倉庫代です。１１の事務雑費は税、税理士費用、登記変更などに要した費用です。

あと、資料の中に数字ではありませんが、２か所ほど間違いがあります。備考の所に振込料とありますが、これについては５のその他の方にまとめておりますので間違いです。それから、一番左の欄、１１の下側に支出予算計とあるのも支出計の間違いです。大変申し訳ありません。

以上の支出合計は５３０９万１７２０円となり、３５１万３９３３円を本年度に繰り越すという形になっております。

議案１・２、昨年度事業と決算のご説明は以上です。

門川代表理事

以上の決算につきましては寺田さんに監事をお願いしていたんですが、体調を崩されて本日は体調不良で急遽欠席となっております。代わりに井戸さんから・・・。

お世話役・井戸

幹事の寺田さんと、税理士さんに内容を見て頂きまして問題なしという風に頂いております。資料でいうと１２ページでございます。

門川代表理事（議案１・２ 承認）

ありがとうございました。それでは、ここまでの説明や決算内容についてご質問やご意見等がある方はおられますか？

異議なしの場合は拍手でもってご承認下さい。

（拍手）

門川代表理事

それではまず資料説明の方を全部やらせてもらってから、議論することにしましょう。

お世話役・井戸（議案３－５説明）

では、本年度の事業計画案につき、お手元資料１３Ｐにてご説明させていただきます。

1 番目の「連携・交流」につきましては、サミット・総会・交流会やMLなどを通し、会の運営や人的交流はもちろん、各地の進んだノウハウの共有に努めていきたいと思います。継続事業に加え、今年は記念すべき第10回目となるサミットが奈良県斑鳩町で開催されます。時点で困っている内容について資料まとめておりますが、本日、議会でご参加いただけなかった中西・斑鳩町長からのメッセージを預かっておりますので、ご覧ください。

ビデオメッセージ 中西斑鳩町長

皆さんこんにちは。斑鳩町長の中西でございます。本来であれば総会に出席させて頂きご挨拶させて頂くべきところでございますが、残念ながら他の公務のため総会への出席が叶わずビデオメッセージの形でご挨拶申し上げます。世界文化遺産地域連携会議にご参加の皆さんにおかれましては日頃から連携、協力頂いておりますことに感謝申し上げます。今年は法隆寺地域の仏教建造物が平成5年12月に日本で初めて世界遺産に登録され30周年を迎えます。これを記念して様々な事業を予定しておりますが、その一つとして第10回世界遺産サミット in 斑鳩を10月28日、29日の二日間法隆寺内で開催致します。世界遺産の保全と活用のバランスを取りつつ、いかに地域の発展に繋げていくのか。又、いかに地域を担う人材を創出していくのかサミットで皆様と共に考えていきたいと思います。又、10月28日の夜には住民の方の協働によるイベントや、法隆寺特別ライトアップもお楽しみいただける予定です。更に斑鳩の里での体験プログラムも用意しております。世界遺産サミット in 斑鳩が日本が誇る貴重な文化遺産の保全と活用を図るための情報共有の場としたいと考えておりますので多くの方々にご参加いただくようお願いを申し上げます。最後になりますが本日の会議のご出席の皆様方の健勝をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

お世話役・井戸

さて、サミットはこれで10回目となり、20遺産を「半巡」という形になります。10年かけてなかなかいい形になって来ているのではないかというお話の一方で、20遺産すべてにこうしたイベントへのニーズがある訳ではないでしょうから、ここからはそう簡単に開催地が見つからなくなる可能性もありまして、そろそろ一つの転機を迎えつつあるのかなという感じもして来ています。とは言え、無理することなく続けて行けるに越したことはありませんので、同じ遺産で2回目の開催もありということにするとかも含め、今後どうして行くかを観光庁や世界遺産議連の先生方と協議している所です。

また、今回初めて斑鳩町という、いわゆる「市」以外での開催となる訳ですが、11回目以降については時点では何も決まっておりませんので、小さい所でもまた登録が新しい遺産でも遠慮いただく必要はありません。やって見ようかという所があれば、どうぞお気軽に事務局までご相談いただければと思います。

お手元資料に戻りまして、14ページ。2番目は要望活動です。本日、この会に先立ちまして、文化庁・観光庁と、世界遺産議連・世界遺産サミット議連の会長さん中心に実施しましたが、特に政治家の先生方との面会については何せスケジュールが議会閉会前、また衆議院解散ぶくみもあったということで、これまでで一番苦戦したというのが正直な所です。要望内容は14Pのようなことになっております。

お手元資料15P、3の遺産別プロジェクトチームにつきましては、紀伊山地・斑鳩・石見銀山がそれぞれ一旦、5年間の活動を終えています。

続いて、4番目は共同事業の推進です。まず、大変残念なご報告です。今年は「日本博」の予算が獲得できず、「世界遺産リレー催事」が2022年度まででいったん終了と言う形にならざるを得ない、ということをご報告申し上げなければいけません。

実は「日本博」の方針変更は年末くらいからささやかれてはありましたが、決定が出たのが年度末ギリギリということで・・・まあ本来ならば、大阪万博の2025年までに20遺産全ての映像を撮り、世界への情報発信やスタンプラリー以外にも新規事業をもっと盛大にやって行きたかったんですが・・・残念ながらそれは叶わなくなりました。

その中でいかに2022年度の事業レベルを維持して行くことができるか、これが今期の最大の課題となっております。

そのような中ですが、まずは資料作成後に多額ではないんですが観光庁からの予算が取れましたので、まずはPTとしては北秋田市を中心に縄文、南島原市を中心にサイレントクリスマスに関するものを1年間、とにかくやって行きたいと考えております。またそれに伴いまして、幸いHP改訂やスタンプラリーくらいは最低限のレベルで続けられそうな感じになってきてはおります。

当然のことながら、以外の補助金にもチャレンジして行くこと含め、打てる手は全て打って、うまく採択されればそれに準じた新しい共同事業が展開できる可能性は残されている訳ですが、もちろん、資金を得るためなら何でもありという訳には行きませんので、世界遺産保全やインバウンドや情報発信や、以外には持続的観光とか、世界遺産内での地方分散とか、将来の富裕層ツアー開発につながるものとか、見極めながらトライして行きたいと思っております。

あともう1つ、国の補助金については応募資格の問題があります。実は現状、当会のような全国ネット団体への支援策はほとんどなく、また特に観光庁案件では応募資格が自治体やDMOに限られている場合が少なくありません。じゃDMOになればいいじゃないかということなんです、それになれるのは現段階では単独地域や地方圏、複数の地域が近接で連携する場合などに限られておりますので、現行制度を見直してもらうための運動も含めやって行く必要があるというお話でございます。

一方、いずれにしても国はじめよそからの予算だけをアテにしているのは毎回似たようなことが繰り返されることになってしまうというのも事実でございます。また現状では将来にわたり事務局そのものが維持できて行くのかどうかのメドがまだたっていないというのが正直な所となっています。

これらの点については議案5までの審議が終了後、別途、別紙をもって皆様にご相談させていただきます。

なお、15P最後にある、世界遺産一斉清掃については資金がかかるものではありませんし、何とか継続して行きたいと考えております。本日は残念ながら宗像市さんも議会のため欠席となってらっしゃいますが、本日「今年もやって行く」ということを決めていただいたならば。改めてまずは各市町村さんに参加意向アンケートをお送りしたいとのことですので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

続きまして、（議案4）当資料作成時点での本年度の予算につき、大変寂しい内容となりますがご説明させていただきます。16Pの1収入の部としては左から2つめの枠が2023年度予算額です。①の市町村会費が昨年決算同額の144万円。新会員が増えたぶん、昨年度に一昨年度の振込み忘れをされた市町村がありましたので、差し引き同額です。

②の事業収入としては年度はじめの資料作成段階ではゼロとなっていますが、その後、地方誘客の促進ということで、縄文とサイレントクリスマスPT分の合計1000万円ほどの観光庁予算が採択されております。

あとは本日の交流会費と繰越金を合わせて、519万3933円。プラス1千万円ほどというのが、現時点での本年度収入予算と考えざるを得ません。

次に支出の部、17Pですが、同じく左から2枠目が2023年度予算でありまして、1の要望活動に20万円・冊子作製や宛名の筆耕、郵送料、ハイヤーなどの費用です。2の会議費は本日の総会・交流会と予備費的なもの含めて80万円。3のイベント費は計上せず、4の広報費としてはSNS関係3万円と予備費的な格好で100万円。5の事業推進費は資料作成時はゼロでしたが、縄文とサイレントクリスマスのPT費用の合計1千万円がこの支出予算となります。

保守的経費としては6の調査研究費5万円、旅費交通費に30万円、各地との打ち合わせや意見交換関係は今期については「東日本」「西日本」「九州沖縄」くらいに分けてできるだけZOOMなども活用しながら行わさせていただきたいと考えています。

以外に通信費に5万円、消耗品費に5万円、また地代家賃としてはとりあえず貸金庫のみの25000円を確保させていただいております。

以外に事務雑費として税・税理士関係で8万円を計上させていただきまして、支出予算の合計は258万5千円とし、来年度への繰越金260万8933円含め519万3933円というのを支出予算とさせていただきたいと考えております。

続きまして（議案５）に昨年度からのもの含め、課題への対応についてまとめております。

まず、昨年度からの課題であります「定款の見直し」については、色々ご意見を頂戴しましたが、最終こんな感じでいかがかというご提案をさせていただきます。

覚えてらっしゃらない方もおられると思いますので簡単に経過説明をさせていただきますと、１９ページにお示した現状の定款１２条では「各社員は各１個の議決権を有する」となっております。これが一般的な形であることはその通りです。

なのですが、現状では一個人と、大小問わず自治体がすべて同じ一票ということでありまして、しかも数としては民間メンバーの方が多い。つけ加えれば、今６５ある自治体数が今後そう多くなることはないのに対し、１０周年で参加意思確認をして７５になった民間が以前の１００名くらいになることは十分起こりえるということですので、果たしてこの官民バランス、今のままでいいのか、という点についてご指摘が出ておりました。

このことにつきましてはいくつかの対応方法があるとは思いますが、今のままでいいというお考えもあろうかとは思いますが、実際にこの間、コロナで書面評決をせざるを得ない年もありましたし、民間メンバーからは「会社等を代表しメンバーになっている方もいらっしゃるかも知れないが、自分は気軽な立場で参加している、そうした方々にとっては、政令指定都市まである地方公共団体１つ分の責任を負うのは重すぎる」ということで、ちょっとしんどいなあ」という方もいらっしゃいます。

そこで事務局提案としては、現行定款では市町村長さんは全員理事ですので、これに民間理事７名を含めた７２名に「２個の議決権」。以外の社員の皆様は今までどうり１個の議決権ということではどうかこの件、決着を図れないかと考えているところです。

いかがでしょうか？

最後に１８ページ下の部分「会の安定的運営に向けて」という点についてはご参考までに会の決算額の推移を載せさせていただきました。会は２０１１年に発足し１６年くらいまでは「とにかくみんなで年１回集まり、仲良く情報交換しましょうよ」という時期。２０１７年からは少しずつ国の予算が取れるようになってきて、ＰＴや共同事業を始めてきた時期で、その間には事業としても色々なことができるようになって来た訳ですが、問題は、今のままでは持続性が全く確保できていないよね、ということです。

この会の活動を振り返ればイイ線行っているといえる部分と、崖っぷちにあるような部分が同居しているのが今の姿なのかも知れません。とりあえずは何とか最低でも水平飛行には持っていかなとねえという意味では、第三段階を迎えているのだと思っております。ではまず取り敢えずどうするかについては、議案４までと定款改訂についてひとまず採決いただいた後、別紙にてあらためてご相談申し上げたいと考えております。

ひとまずのご説明は以上です。

門川代表理事（議案３－５承認、→ 自由討論）

ありがとうございます。今までのご説明にご意見等ございますでしょうか。まずは承認を取らせていただかなければいけない議題５までのことと、今後の運営については私も皆さんのご意見も聞きながら少し踏み込んだ議論もした方がいいと思いますので、まず議題３・４・５につきましてご意見等ございましたらおっしゃって頂ければと思います。議案計画とか色々な中身についてはもう少し深い議論をその後にさせて頂いたらいいと思いますので、どうでしょう？

それでは一旦この説明につき了解頂くということでよろしいでしょうか？

承認の拍手をお願いしたいと思います。

（拍手）

ありがとうございます。

それではこの会も１０年以上たち、冒頭に申しましたけれども、本当に沖縄から北海道まで縄文文化から近代まで非常に幅広い方々のご参画を得て、しかも行政とそして地域その他で活躍頂いている団体や個人と一緒にやっていくというあまり例のない組織として発展して来たと思います。その良さをいかに維持しつつ主体的に運営する体制、組織そのものを持続可能なものにしていくというのが大きなテーマであります。私、代表理事を務めさせて頂いておりますけど、井戸さんが献身的にやって頂かなければ動かない組織だと思っています。京都市が様々な団体の組織の事務局も含めて担っているところがあるんですけど、各団体から職員を出してくださいとか、負担金を出してくださいとか、そういうことで運営してますけども、実際この会の負担金というのは全部で１４４万円ですか。これでやっているというのは異例中の異例だと思います。井戸さんについては元々出発当時から別の組織の仕事をされてたので、そっちで人件費も賄って頂いたり、あるいはそういうことをあまり気にされない奇特な人でして・・・そういうことも含めてこの会議をどうしていくのかということはあると思います。

前にも一度お話しさせて頂いたことがあったと思いますけれども、この三つの取り組みのうちのノウハウの共有とか、国への提案、それから共同事業の実施この共同事業の実施などについてはやはり色々な資金を獲得していくという事が必要だと思いますし、民間のスポンサーからいかに機運を集めていくとかかこういうことも考えられるとこのように思います。

ただ、基礎的な運営についてはやはり参画している地域の負担をもう少し増やしていかなければ１４４万円が基礎収入で、これだけの大きな組織を回して行くのは無理かなと、このように思います。

時間はあんまりかけてられませんね。これを希望制で、申込制でランクをつけて負担金を増やしていくとかということも含めてまた議論を深めたいと思っていますのでこれらについてもご意見があればよろしくお願いしたいと思っています。

事務局井戸さんの方から何かありましたら。

お世話役・井戸

おっしゃって頂いたようなことなんですけれども、単純な話としまして総会をやるとか要望活動をやるとかは同窓会の幹事みたいな話なので、これはボランティアでも、あるいは片手間でもできると思います。それと国のお金 that 得られてその中に人件費を入れる時には私も「日本博」の4年間は当然人件費は頂きましたし、そういう事はできると思うのですが、個人的なお話で恐縮なんですけど、私も一応64歳でございますので、自分が辞めたらどうなるのかなというのが心配で・・・人件費は出ないけれども国のお金とれたらお前食っていけるかもよというのでは次の世代には相当酷なお話になると思いますので、そこも含めて考えて頂ければと思います。私も退職金が尽きるまではやりますし、尽きてもジャンル1、ジャンル2くらいのことはやりますけれども、次の人がやっぱり引き継いでくれないと会としていづれ回らなくなってしまうので、そこを是非お考えいただければなと思います。

なお、予算の関係がありますから、今期ではなく来期以降のお話としてどうするかの議論をして頂ければとても有難いかなと思っております。

門川代表理事

どうですかご意見。誰からでも結構です。突然ですので来期には一つの案をまとめるということで、この会を必要とするかについてもよろしくお願ひしたいと思っております。

それでは固い話を先にしたんですけれども、色んな意見のお話を聞かせて頂きたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。この間様々な取り組みをして頂いた方々から指名させて頂きながら、ご意見承っていきたくと思ひます。

昨年度、世界遺産サミットを開催していただいた富岡市の榎本市長、世界遺産サミットのご感想や補足いただくこと、また会の運営につき何かご意見あればお願ひします。

榎本・富岡市長

皆さんこんにちは。富岡市長の榎本と申します。昨年度富岡製糸場開業から150周年の記念ということで、その記念の事業の一環として世界遺産サミットを開催させて頂きました。中身については資料にも掲載させて頂いておりますけれども遺産の減災対策や、地域コミュニティの参画、そして遺産の継続的なマネジメントをテーマに講演会等を開催させて頂きました。大変多くの皆様にご協力頂きまして開催できましたことを改めてお礼を申し上げたいと思ひます。私の方から発表させて頂いた一部を紹介させて頂きますと、富岡製糸場の煙突でありますけれども、耐震補強、耐震化が出来ていないので、この煙突の工事費をなんとか捻出しようと

ということでクラウドファンディングの方をさせて頂きまして8000万の目標金額をこの多くの企業の皆様にご協力を頂きながら目標を達成させて頂いております。ただ本当に今後この世界遺産富岡製糸場維持、管理していくのは本当に課題が多いなという風に考えております。活用含め観光振興等もこれからも皆さんと意見交換をさせて頂きながら様々なアイデアを出して共に動いていけたら大変ありがたいなという風に思っております。本市の観光協会等も今年度中に登録DMOに申請しなければならないという期限で今準備を進めております。そういった面も含めまして今後も皆様にご指導頂きながら共に歩んでいけたらなと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。大変お世話になりました。ありがとうございました。

門川代表理事

本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。それでは青木平泉町長お願いいたします。

青木・平泉町長

平泉町長の青木と申します。私の隣に先ほど自己紹介されました一戸町長、北東北の縄文遺跡群として登録になりました。岩手では縄文の文化、そして平泉の平安時代の900年前の文化、そして近代の文化であります橋野鉄鉱山の三つが今岩手に世界遺産として認定されました。世界遺産全体のこの連携と同時に、岩手の中でその三つの特徴あるそれぞれの文化を、県として一緒にやりながら連携させ、東北のコロナ禍を脱却する新たな観光を生み出していきたいと思っております。そしてもう一つ、文化遺産を外に発信していくことが非常に大事な取り組みになっていくのだらうと思っております。ニューヨークタイムズで日本で訪れてみたい場所の2番目に盛岡が入りました。盛岡ってどこにあるのかなと思う方もいるかと思いますが岩手にあります。そして平泉も岩手にあります。今平泉にも多くの方々、特に欧米の方々が訪れてきて頂いています。そういった部分を構えることなくしっかり受け入れながらですね、更にまた新たな魅力を発信していくというのが今大きな課題だという風に思っております。

最後に当然のことながら、今年10回目となる世界遺産サミットが開かれるわけですが、この連携は今後もやっぱりずっと必要な組織だという風に思います。提案をさせて頂いたければ先ほど報告あった部分は理解いたしましたので、平泉にはこれくらい負担してくれとかですね、具体的に提案をまとめて下さい。私はこの組織は必要であるという風に思っておりますので今後ともなお一層皆様方のお力沿いを承りたいという風に思います。ありがとうございました。

門川代表理事

熊倉理事いかがですか？ 富岡サミットでもお世話になりましたが、熊倉さんは会の発足当初から「世界遺産で日本史をめぐることができるようにすればどうか」とおっしゃられてきましたね。近代遺産が増え、また縄文遺産群が新たに指定されたことにより、色々な展望が開けてます、ここまでとこれからの会の活動につき何かコメント頂ければ。

熊倉理事

榎本さんがお話しされましたので私が付け加えることはあまり無いんですけれども、幸いにして四つの構成資産を持つ、四つの市と町の首長が全員参加することができ、また、我々内側だけで議論するのではなくて、白川郷の宮丸教育長さん、日光の岡井さん、それから宗像の高宮教育長さんはZOOMでしたけれども参加して頂いて、外のことを学ぶことが出来たというのが今回の富岡サミットの大変大きな価値でした。その中で持続的発展をどう考えていくかという中に、遺産そのものではなくて、実はそれを持っている町、市、村がどう持続かするかということが実は大きな課題だということを改めて知らされました。特に富岡の中で、街の人に後で聞いたんですけれども、製糸場がある富岡地区の人々にとって世界遺産である前に自分たちがそこを暮らしにしてきた事をもう一度どう繋いでいくのかという視点で考えていかないと中々持続化というのは難しいよねという事を本当に実感し始めたという感想をいただきました。幸いにして富岡市も藤岡市も下仁田町も、また伊勢崎市という20万を越える大きな町にしても、小さい単位の地区の中でみんなが暮らしていくという大切さを、世界遺産を通して今考えるようになってきています。時間はかかるでしょうけど、例えば伊勢崎の中の島村地区というのは、一つの境町という合併した町のまた一つの単位なんですけれども、田島弥平旧宅だけではなくて、そこ全体がどう世界遺産地域としてありうるのかというところまで、みんなで暮らしながら考え続けて行こうではないか。それによって他の地域とのつながりができ、また観光客の方々も来てくださると考え動き始めています。岡井さんの日光門前の町づくりや宮丸教育長さんのところの白川郷の皆さん方からも、まちづくりの過程でかなり厳しい局面もそれぞれにあったと聞きました。それを教えて頂いたことはプラスでした。キーワードは「緩やかな掟」をもう一度我々は作っていかないといけないのではないかと。それをどう考えていくのかということを宿題で頂いたことが今回のサミットの一番の課題だったと思います。本当にありがとうございました。

門川代表理事

含蓄あるお話ありがとうございます。おっしゃる通り町が持続可能であるか、暮らしが持続するかと、おっしゃる通りですね。

どなたでもご発言をお願いしたいんですけれども。中井町長からも一言お願いします。

中井・吉野町長

吉野町長の中井でございます。私自身は2020年の2月に前町長の北岡から引き継がせて頂きました。その中でほとんどコロナで世界遺産のこういった取り組み等々に参加することが出来ずに一度ZOOMで参加させて頂きました。ただ、世界遺産そのものというのは非常に重要な位置づけでありまして、吉野にとりまして来年世界遺産20周年という形で県産地の参詣道をどう生かしていくかという準備に今入っているところでございます。特にこの土曜日ですかね、プラタモリというNHKでも放映されたと思うんですけども、やはり桜という資源はありながら、修験道の聖地である吉野ということで、やはり道が一番大きなポイントであって、先ほど熊倉理事からもありましたように修験道を中心とした人々の営み暮らしがあって吉野が守られてきたということが一番これが大きなポイントかなという風に思っています。その中で実際にこれからどうやってその観光の切り口の中で人々の営みを保っていけるかというところにウエイトを置きながら事業を展開していかないといけないかなという風に思っています。昨今そのような中でやはり環境問題とかまた森林の問題とかですね様々な切り口は多様化しているかなという風に思っていますし、そこに企業の視点というのが色んな意味で関わりが増えてくるのも確かです。ですからそれぞれの地域資源がどのような形で企業と連携できるかとかですね。そういうプレゼン的なこともやっていってもいいのかなという思いも一つあります。後ですねコロナの中でちょっとこれは吉野なんですけれども、コロナの中で中々観光客が来れなくてですねその中で奈良県とその時は天川村・曽爾村・吉野ですね、マインドトレイルという「心の中の美術館」という形で芸術家を入れながら歩いてその地域の人々、土地と対話するというイベントを3年間続けてきました。それをどう今後継続できるかということ、大阪万博を一つの視野に入れながらですね、考えて行きたいと思っています。やはりそうなってくると奈良県は今三つ世界遺産があるんですけども飛鳥・藤原とかですね今登録に向かって頑張っているところで、やはりそうした世界遺産を結ぶ道というのも非常に大事で。ポイントの道だけじゃなくてそこに入ってくる導線の山の道も森林とセットで整備をしたり、そしてまた風景を継続できるという風景を継続できるという風なところも観光の一つになってこよかなという風に思いますので、できればそういう風な切り口を企業とも連携しながらやっていくということを考えています。スペインのサンディエゴ巡礼みたいのもイメージしながら今後の世界遺産の取り組みをやっていけたらなという風に思っています。あと一つこの会そのものも多様な課題が多くて一番大きなのはマンパワーかなと思っています。多様な組織団体がありまして、日本で最も美しい村連合とか、日本遺産とかですねそれぞれいろいろな協議会に入っているところもございまして、その中でどれを優先的にやっていくかということも今行政においてもやはり一つの判断基準になってこよかなという風に思いますので、できればそういう魅力的なちょっと他では無いような切り口でこと協議会等々に参加させて頂ければなという思いでございます。感想的なことにもなりましたがよろしくお願い致します。

門川代表理事

ありがとうございます。それでは効果的にと思ひまして指名させていただきます。歴史と旅のライター多田みのりさん。よろしくお願いします。

歴史と旅のライター・多田みのり

旅と歴史のライターの多田と申します。私は奈良の観光大使をしておりまして、奈良のことを色々やってきて参りましたけれども同時に学生時代に考古学をずっと勉強しておりましたのでこの間にずっと所属しながらも一番好きなのところの部分で話ができることがあまりなかったんですけれどもようやく縄文時代が世界遺産になってくださって、一昨年と去年と全遺産を周らせて頂きました。とても嬉しく思っております。17件縄文遺跡群がそのうち個人で6ヶ所伺ったことがあったんですけれども、今回事務局の皆さんと時代を追って巡ったことでぐ縄文時代が改めて理解できるようになりました。そういった巡り方等含めて去年からも井戸さんおっしゃっていますけれどもわかりやすく期を追って巡って行くようなルート作りですかそういったことで何かお手伝いできればいいなと今お話を聞きながら思っております。後ほど色々お話しできればと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

門川代表理事

ありがとうございます。世界遺産の層が厚くなってきて多くの人の満足度が高まっているということを感じます。ありがとうございます。静岡の三保松原、いい遺産の日素晴らしいですね。補足して頂ければと思います。

静岡市・眞田

静岡市の三保松原の文化総合センターの眞田と申します。先ほど「いい遺産の日」ということで紹介いただきましてありがとうございます。三保松原は富士山世界文化遺産の構成遺産ということで本丸の部分からすると約45キロくらい離れている場所になりますが、やっぱり三保の松原自体は松という特殊な、特殊と言ったら変ですけども植物なものですから、樹木なものですからやっぱり人の手をしっかりと入れていかないと松原を維持することはできないと。これは先ほどのニュースにも出ていましたけれどもやっぱり人々の生活の中にあったということですし、かつては松葉を燃料にしていたということもあって、落ちた松葉というのは生活に役立てたというところもありますけれども、だんだんその生活の状態が変わってきたとい

うことで、松葉を取るということがどんどん減ってしまったということなんですね。その中でああいり取り組みを地域が一体となってやっているということでなんとか保っているという状況になっています。今年ちょうど世界遺産10周年ということで、ちょっと我々も保全活動にしっかりフューチャーして10周年の取り組みをやろうとしております。若い世代にしっかりこれを伝えていきたいということでこの一年やっていこうと思っています。紹介して頂きありがとうございます。

門川代表理事

ありがとうございます。素晴らしいですね。本当に自然というのはほんまの自然やなしに人間が入って入ったの自然です。京都の市内の75パーセントが森なんです。ここが本当にこの10年間豪雨、台風などなどで本当に災害続きでして大変な、見方を変えれば負の遺産のような形になっており、その中に1000年続く集落がある。大阪市は八百八橋と言っていましたけれども、京都市内には実は2900の橋がある。だから偉大な田舎、田舎の集合体が京都市だと。街中だけを見て京都市だと思っている人がいらっしゃるんですが、実は深い深い森があるから琵琶湖より深い地下に水脈がある。だからお酒も美味しいとお豆腐も美味しいということなんですけれどもね。世界の歴史都市で1000年超えて都があったというのは京都だけなんですけど、これが今危機的なわけでしたら本当に悩みも共有できるなと。しかし同時に可能性も共有できるなと慣例を受けました。ありがとうございます。

次々と話を聞かせて頂きたいと思います。ほかに何かご意見やご質問はないでしょうか？理事の島川さん。

お世話役・島川

お世話役なのに今日は黒子に徹しようかと思っていたのですが、一言この会の今後についてのプラスでお話しできたらと思います。私もできる限り井戸さんのお役に立てればと思ひまして色々お手伝いをさせて頂いています。ですけれどもボランティアにも限界というのがございまして。ですけれどもできる限りのことはやりたいという風に思っております。観光学の教員として一つこのコロナの間考えたこととかをちょっとせつかくの機会ですので申し上げたいと思うのですが、今まで日本というのはインバウンド、外国人観光客が大挙して押し寄せるといのはありませんでした。ですから海外からお客様が日本を見に来るといのはこれはありがたいと。海外からわざわざこんな国極東まで来て頂いたのはすごく嬉しいことで、ありがたいことで何か外国人に対して日本人の観光客よりも外国人に対してメリットを出して行くような傾向がどうもあったように思います。あのジャパンレールパスなんていうのもまさにそれ

の最たるものだと思います。ですけれどもこの実際コロナになる前の直前のあのインバウンドブームそしてコロナが終わって今またインバウンドが戻ってきた中で、我々の平穏な生活がおりやかされている面もあります。その部分に対してお金を我々よりも安いお金で受け入れるっているのはもう終わりにしてもいいのではないか。この会もそうですけれどもやはり外国人観光客からお金を我々の経済活動のためにいただいているんだという考え方に立つべきでしょうね。その分、最高のホスピタリティであったりとか、おもてなしでお迎えする。しかし、そこを我々日本人よりも安くする時代はもう終わっているのではないかという風に思っております。ですので実際、今国際観光旅客税なんていうものもあります。あれも私出る時に大反対をして観光庁から睨まれてしまいましたけれどもこれだっておかしな話なんです。だったら観光のそういう基盤整備、こういう会のために、DMOとかではなくて全国的にこういう一番の基盤整備をしているわけですからこういうところにこそ私はその国際観光旅客税なんかを使って行くべきではないかという風に思います。日本人もお金を払っているわけですからそういうところを私は直していかなければいけないのではないかという風に思っております。外国人から外国人に対して我々よりも安い金額で便宜を計るという時代は終わった。もっともこの外国人とも共生できるような持続可能な観光状態を作るためにもやはりお金のことはそういうところはシビアに見ていった方が「これこそがグローバルスタンダードではないか」と思っております。以上です。

門川代表理事

非常に具体的な話をありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。京都市も宿泊税6年前から始めてますけれども、5万円以上の宿泊施設には千円の宿泊税をもらいますけれども、一泊100万円の部屋とかもありますのでこういうところは5万円くらいもらえるようにしなあかんと思っています。100万円の部屋に7ヶ月泊まった人がいる。ホテルの支配人が迷惑なことだと他の人を泊めてあげられへんと。一結局家を買って出て行かれたらしいんですけども。世界は非常に広いもので、ある旅行会社の人がホテル代2万円ですと言ったらもう一度電話がかかってきてその部屋にはトイレがついているのかという確認の電話だったと。こういうのが世界の状況でニューヨークでラーメンが四千円するとのことでもあります。しかし多様の人がおられるので一律に上げたらあかんと思いますけど、多様性を認め合うということも含め、そうした価値設定をしてその分は働く人の給料を上げる。学ぶ機会を作っていくということは大事やと思っています。ありがとうございます。

ほかにどなたかご発言ありませんか？ 奈良の若林教育次長おられますか。

奈良市・若林教育次長

若林と申します。奈良の方につきましてはもともと生活が密着した文化も含まれていますので、一般住んでいるものにつきましてはあまり世界遺産というところに向かないんですけれどもやはりコロナ禍が少しずつ緩和されてきて今日も新幹線かなり外国人の方がほとんどみどりの窓口とかに殺到してましたけれども、観光客としてはほとんど戻ってきているという感覚があります。中には外国人しか気付けないという部分があると思っています。奈良では夏に燈花会というイベントをさせて頂いてまして、多くの外国人がボランティアされてます。人と繋がる中で文化を「体験するということもあると思います。ちょうど奈良は今年25周年を迎えますので一つの節目を迎えますから、この人との繋がりとというのが一つ大きなところかなと思っています。こう言った課題につきましても同様に繋がって行くことが重要なんではと思っています。以上でございます。

門川代表理事

ありがとうございます。釜石市の笹村世界遺産課長お願いします。

釜石市・笹村世界遺産課長

明治日本の産業革命遺産の構成資産のある釜石市でございます。連携会議におきましては先ほどお話しありました通り井戸さんにおんぶに抱っこという状態でありますので、何とか会議の方を継続できるように当市の方もご協力していきたいなと思っています。また先ほど平泉町長さんからもお話ございましたが岩手県も三つの世界遺産ということで岩手県の方が中心になって連携会議になるものを昨年からは始めております。観光ガイドの皆さんの交流会ですとか、あるいは各自治体の小学生の子どもたちの交流というものも始めているところです。観光の方はですね皆さんと同様にコロナ禍でかなり減少したわけでございますが、少しずつお客さんの方戻ってきているものの、まだまだコロナ禍前までには至っておらない状況でございます。また今年度先ほどもご紹介ありましたがニューヨークタイムズに盛岡市が紹介された件でございますが、観光庁の観光再始動事業で岩手県が採択されておまして、盛岡市を中心にですけれども盛岡市と三つに世界遺産平泉、一戸、釜石ということでですね三つの自治体にもインバウンドのお客様が周っていただけるような事業も展開する運びとなっております。合わせて岩手県の方で世界遺産祭。それも今年度は三つの世界遺産の中で釜石で開催していただけるということで、大きな二つのイベントが開催されるということでうちの方も県と協力をしながら取り組みを進めて参りたいと考えています。あと都市で言うと特徴的なところはですね鉄の歴史ということで、小中学生に橋の鉄鉱山関連の資産であったり、あるいは鉄造り体験をしてもらうことにしています。中々住民の方々世界遺産がある街という意識のある方、ない方様々で

ございますが子どもの頃からしっかり鉄の文化を伝えるということをして、卒業をして釜石を出ることがあっても、世界遺産のある街、鉄の文化がある街だということで学ばせるということにしているところでございます。取り止めもなくということになりましたが以上になります。

門川代表理事

ありがとうございました。

最後に。会全体としては確かにこれからのことを考えて行かなければいけない時期だと思います。今後の会の安定的運営に向け、事務局から説明願います。事務局井戸さんの方で考えていただいていることもありますので、ご説明いただけたらと思います。

お世話役・井戸（別紙説明）

（別紙「一社・世界文化遺産地域連携会議の安定的運営に向けて」の説明）

当会は、これまで、「ノウハウ共有」、「国等への提案」、「共同事業の実施」を3つの柱に取組を進めてきました。このうち、最重要なのは「ノウハウ共有」、「国等への提案」で、総会やサミットの開催や要望活動などがそもそもの活動の中核となる部分です。この部分については現行の会費収入の範囲、またスタッフも非常勤のボランティアでもできるということですから、今後も継続した取り組み自体は可能と考えております。

ただし、世界遺産地域間で多少の「共同事業」たとえば現段階で言いますと情報発信とか、インバウンドとかに関する共同事業を進めて行こうとすれば、一定の資金が必要となります。

特にスタンプラリーやHPなど大変初歩的といいますか、基礎的な事業についてまで国や外部の資金をアテにしていますと、今回のような大変残念な問題が生ずることになります。

そこでご相談申し上げたいこととしては、HPの更新やスタンプのリーフレットの印刷等だけでも一定のお金はかかりますし、さまざまに事業を維持発展させて行くには、事務局の維持も必要です。少なくともその部分について地元負担でお願いできないか、ということでございます。

資料の下側には現状に各市町村10万円ずつプラスして下されば、こういうことまではできます。それが20万円ならこう、30万円ならこうといったことを書かせていただきました。

しかし一方では、自治体ごとに世界遺産や観光への濃淡があることも理解しています。現在の市町村数は65ですが、全ての地域に今以上のご負担をお願いするのは恐らく難しいだろうとも思っております。ただ、65のうちできるだけ多くの市町村が広報協力金なら広報協力金という形で、プラスのお金を予算化して下されば、事務局や少なくとも最低限の広報活動の維持くらいは可能になります。

そのような中ですので、次のような考え方で対応して行く以外ないのではないかと感じてお

ります。

①基礎的活動については会費収入で賄う（１４４万円）。

②共同事業系の活動については。各事業に参画する自治体を募り、参画自治体間で必要経費を負担する。

現実的な線としては、３段階でお示した１つ目と２つ目の間あたり。まず市町村間で現状の市町村長会費以外に広報協力金として１０００万円を目標に集める。その中で基礎的な広報や持続可能な事務局体制を作っていくという線があると考えています。例えば市は年間２０万円、町村は１０万円を「広報協力金」のような形でご検討いただき、それを出していただける所で情報発信やスタンプラリーをやるとともに、併せて国からの補助金や民間スポンサー等の確保に努める。都道府県の参画についても別途検討して行く。

JNT0の会費が年間３０万円のようなので、ご負担いただくとしても１０万から最高３０万円くらいまでの幅が限度だろうなと思っておりますし、一方では１０００万円を２０遺産で割りますと１遺産当たり５０万円ということになりますから、単独で指定されておられる所などについては別途その範囲で調整させていただく。他方で、現状出資以外はどうしても難しいという市町村さんには交流や要望活動分野に限定して、従来どうりご参加いただく。そういう２段階に分けた考え方をとるのが一番現実的ではないかと、考えている所です。

ご説明、ご相談のほうは以上です。

門川代表理事

ありがとうございました。

あらゆる組織を運営していくときには財政的な基盤とそれから担い手、それ以前に明確な理念ビジョンということが必要ですけど、やはり人と財政は欠かせないことのように思います。率直な議論をこの間あまりしなかったことについて、特定の井戸さんなどの善意だけに頼ってはいけなかったなと反省しています。しかし今の案も普通であれば人件費がものすごくいるわけですが、ほとんどボランティアでやられていることに依拠しているという現状を、一歩前進させるためにも改めて成文にして案として出させていただき、議論して決めていきたいと思いますので、この点については一応の確認はできますでしょうか？

拍手していただけたらありがたいなと思うんですけども。

（拍手）

しっかりと議論してこの会素晴らしい会の未来のための取り組んでいきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。予定している時間は終わったんですけども、この

際何かありましたらどうぞ。宜しいですか。では、このあと交流会もありますのでまたその場でも楽しくお話ししたいなと思います。どうぞよろしくお願いします。

お世話役・島川（閉会）

皆さん、お疲れさまでした。

それではこれにて2023年度総会を終了させていただきたいと存じます。本年度もそれぞれに世界遺産を活かした活動が進んで行くよう期待しております。

なお、引き続き18:00より、徒歩数分のお店にて交流会を開催させていただきます。飛び入り歓迎いたします。受付に地図をご用意しておりますので、ご参加の方は現地集合で宜しくお願いいたします。

以上